

リーディングDXスクール事業【実践事例】

札幌市立中央小学校（札幌市）

【取組内容⑤】「実践内容を動画・写真、研修のオンライン公開などにより地域内外に普及」（後期）



12月26日 札幌市リーディングDX冬季学習会

第一部では、ICTを活用した小学校と中学校のの実践について発表した。第二部では、両校のコーディネーターである放送大学中川教授が「Next GIGAと子ども・教師・学校～5つの壁を越えて～」、同コーディネーターの広島工業大学安藤教授が「個別最適な学びを支える思考力と学習ログの必要性」と題して講演を行った。会場・オンライン合わせて、全国各地から150名の教員らが参加した。

2月8日開催 教育データ利活用シンポジウム

現地参加では北海道内の市町村教育委員会・教職員の皆様にお集まりいただき、オンラインでは全国の自治体より50名を超える御参加をいただいた。1年生国語・3年生道徳の授業を公開した。

2月14日 胆振教育局視察 3年生国語生成AI活用実践

3年国語「たから島のぼうけん」の授業公開を行った。教材文から着想し、物語を書いてきた児童が、内容に合わせた挿絵や表紙の絵を生成していく。イメージに近付けるためにプロンプトを何度も調整していく姿が見られた。

2月20日 生成AIパイロット校成果報告会参加

2月26日 帯広市教育委員会視察 5年生国語生成AI活用実践

5年国語「提案しよう言葉と私たち」の授業公開を行った。日常生活の中から課題意識を見出し、クラスの課題に対して自分の考えを提案していく。下書きがかけてきた児童からテキスト系生成AIとやり取りをすることで、提案文の説得力を高めていく姿が見られた。

